



元衆議院議員

周囲にお配りいただける方募集中!

きいたかし後援会事務所  
〒802-0072 福岡県北九州市  
小倉北区東篠崎1-4-1-201  
TEL: 093-941-7767  
FAX: 093-941-5535  
メール: smile@kiitaka.net

# きいたかし

## 城井 崇レポート 2015.6~8

きいたかしウェブサイトは  
<http://www.kiitaka.net>

安全保障法制について

# 安倍政権が進める 集団的自衛権行使は反対

## 専守防衛に徹し、近くは現実的に、遠くは抑制的に

皆さん、こんにちは。元衆議院議員のきいたかしです。さて今回は安倍自民党政権が進める安全保障法制の変更について私の意見を述べます。

5月14日安倍内閣が集団的自衛権の行使を含む安全保障関連法案を閣議決定しました。

私は今回の安全保障関連法案は、その内容も審議の進め方も極めて問題が大きいです。安倍政権の言うとおりに法律を変えさせてはなりません。

私は現実的な安全保障観に立つ。私は政治家を志して18年、国の守りに関しては積極的に取り組むべき、と申し上げてきた政治家です。我が国の独立、平和と安全を維持し、国民の生命・財産・基本的人権、領土・領海などを他国からの不正の侵害から守るために、専守防衛に徹しながら日米同盟を深化させ手立てを尽くすことをこれまでも主張してきました。国連平和維持活動や人道支援、災害救援、海賊対処等の国際平和活動については積極的に取り組むべきです。他国軍支援については我が国の経験や知見が乏しくケースバイケースで慎重に対応すべきと考えています。

自国防衛と周辺事態は「現実的」に対応すべき。国際人道支援は「積極的」に対応すべき。遠方の国際紛争関与は「抑制的」に対応すべき。これが私の考えです。

安倍政権案では歯止めが利かない。この考えと安倍内閣の考えは全く異なります。実際国会での議論はこれからと言いつつも、内閣であらかじめ作った踏み込んだ結論を押しつけつつあります。

まず、内容についてです。周辺事態への対応からいつのまにかアメリカとともに世界の警察の役割を果たす話へと手を広げてしまっています。政府の新三要件はその発動や対応基準があいまいで時の政府の判断でいかようにも当てはめることが可能です。その上に我が国の武力行使が許される範囲が恣意的に変化するので歯止めがきかないのです。切れ目のないという名目で自衛隊の海外活動の拡大に歯止めがかからない状況が生まれてしまいかねません。望まない戦争に加担するケースも生まれかねません。

(次面へ続く)

# 対案を示して 冷静に議論します。



(前面の続き)  
安全が確保出来なければ撤退するなどと言っていますが極めて非現実的です。

進め方も国民軽視・国会軽視  
進め方も極めて問題です。  
昨年2014年末の衆議院選挙でも自民党の公約の中ではこの安全保障関連法案の具体的な内容についてほとんどふれていませんでした。国民合意があるとはとても言い難い状況です。  
その上、我が国の国会での審議にも入っていない段階で米国において安全保障関連法案の成立を勝手に宣言、国際公約して帰ってくる始末です。  
進め方においても、国民軽視、国会軽視で、言語道断です。  
またこれまでも申し上げてきましたが、憲法解釈を政府が便宜的・意図的に勝手に解釈変更している点も立憲主義に反し許されるものではありません。

平和主義を踏まえ現実的な体制を東アジアにおける緊張関係を例に出すまでもなく、現実的な安全保障体制の構築は必要です。しかし、安倍総理の言葉から、先の大戦の屈辱や汚名を晴

らし、我が国を覇権国家としていきたいという思いばかりを感じるのは私だけでしょうか。威勢よくこぶしを他者に振り上げるのが本当の保守だとは思いません。戦後70年、平和主義を貫いてきた我が国の歩みから外れ、我が国から戦争へ加担するような道は広げさせるわけにはいきません。

是々非々ながらに対案・提案  
ここまで問題点を論じてきましたが、対案も準備しました。「領域警備法案」など、有事とは言えない「グレーゾーン事態」について海上保安庁や警察、自衛隊の連携を強化して迅速に対応する新しい法律案を提示しています。新三要件ではあいまいな対応基準も法律に明記して自衛隊の活動の歯止めをはっきりすべきです。  
我が国の守りに必要な手立てはしっかり講じるべきとの立場に立って冷静な議論を訴えます。本当の意味で国民と我が国を守るため、私も声を上げます。皆さんぜひ力をお貸しください。

元衆議院議員 きい たかし 拝



元衆議院議員 きい たかし(城井 崇) 41歳のプロフィール

1973年(昭和48年)北九州市門司区生まれ。田野浦小、早鞆中、門司高、北九州予備校(2浪)、京都大学卒。松下政経塾、前原誠司代議士秘書等を経て、03年衆院選・比例九州にて初当選。05年衆院選で惜敗。政治浪人後、09年衆院選に再挑戦、小選挙区当選(2期目)。文部科学大臣政務官、衆院予算委理事、衆院文部科学委理事、事業仕分け第3弾仕分け人等を歴任。12年、14年衆院選で惜敗、国政復帰を目指して地元北九州で東奔西走。1男2女のパパとしても子育て奮闘中。得意分野:教育、科学技術、安全保障、行政改革  
好きな食べ物:ラーメン 気になること:野党再編、第2勢力をどう作るか

facebook  
「城井崇」で検索。  
友達申請お待ちします。  
HP右側ボタンからも。

twitter  
「きいたかし」で検索。  
HPでも最新のツイートを読めます。